H29.3.27　高等学校課

平成 29 年２月 26 日（月）の第１回学校説明会のアンケートでいただいたご質問への回答

１　入学者募集について

Ｑ１　入学定員について、男女同数程度ということでしたが、男女ごとで選考するのでしょうか。

Ａ　これまでの県立中学校３校と同様に、異性との人間関係を築くことなどのバランスのとれた学校生活が送れるようにという主旨から、基本的には、できるだけ男女同数となるよう、選考を行いますが、総合的な判断の中で、どちらかの生徒が若干多くなることもあります。

Ｑ２　入試の内容はどのようなものですか。また、適性検査に英語は出題されるのでしょうか。

Ａ　選考資料は、志願理由書と、適性検査、作文及び面接の結果としています。平成 30 年度の入学者募集において、適性検査に英語は出題しません。

Ｑ３　入学までにどの程度の英語力が必要ですか。

Ａ　特に、ここまでは必要といったものは設けておりません。入学後、学校の教育活動全体の中で、生徒一人一人に高い英語運用能力が身に付くよう指導してまいります。

Ｑ４　中学入試の検査日は私立中学校と同じ日ですか。

Ｑ　まだ入学者募集の検査実施日は決定しておりません。平成 29 年６月には正式決定し、ホームページ等でお知らせしますが、例年どおりの日程を検討しています。

Ｑ５　入学試験は小学校の勉強だけで大丈夫ですか。それとも塾などで中学入試用の勉強が必要ですか。

Ａ　小学校でしっかりと勉強していただいた学習内容を問う適性検査です。適性検査の過去問題は、教育委員会事務局高等学校課のホームページに掲載しておりますので、ご確認いただければと思います。また、全国学力学習状況調査や県版の学力定着状況調査の検査問題の知識の活用を問うＢ問題なども参考になるかと思います。

Ｑ６　中学入試の際に小学校からの推薦はありますか。

Ａ　小学校からの推薦書や調査書の提出は必要ありません。なお、願書には小学校長の卒業見込みであることの証明欄がありますので、その証明については、小学校に依頼してください。

Ｑ７　帰国子女優先枠はありますか。

Ａ　帰国子女枠といったものはありません。外国の学校から出願される際には、事前に手続きして志願先中学校の校長の承認を得る必要がありますし、志願理由書や作文、面接では、海外生活などの経験も確認できると考えます。

２　教員の養成・確保について

Ｑ８　指導する教員の確保はできているのですか。

Ａ　大学院でＩＢ教員養成課程を修了した教頭を中心に、現職教員に対し国際バカロレア認定校での実践研修のための派遣、国際バカロレア機構の公式ワークショップといった研修を行い、平成 30 年の開校に向けて必要な国際バカロレアを指導できる教員を確実に配置できるようにしております。

Ｑ９　公立学校では人事異動があるが、国際バカロレアを担当する教員は高知国際中学校・高校の専属となりますか。

Ａ　当面、ＭＹＰとＤＰが軌道に乗るまでは、高知国際中学校・高校で専属的な教員の配置となると考えています。その間に、他の教員の育成や採用により、国際バカロレアを経験した教員が増えていくことにより、いずれは、他の学校にも配置していきたいと考えています。

Ｑ10　外国人教員の確保はできるのですか。

Ａ　平成 29 年２月に、外国人教員の採用制度を新たに設け、平成 29 年４月に２名の外国人教員を採用する予定です。今後もさらなる外国人教員の確保に努めてまいります。

３　部活動等について

Ｑ11　部活動の活動日の制限は中学校だけでなく、高校にもあるのですか。

Ａ　中学校で実施予定のＭＹＰでは、放課後や土曜日などを活用した課外活動（課題研究やボランティア活動など）があることや、探究的な学習を進めるうえでの調べ学習などの家庭学習の時間を確保するため、部活動の活動日を制限するものです。

高校のグローバル科のＩＢコースについては、多くの書籍を読んだり、論文を書くための文献を調べたりするための家庭学習や、課題についての調査、まとめなどの時間も必要であり、部活動については、実質的に制限がかかることになると考えます。

Ｑ12　中学校の部活動はどのような部があるのですか。現在、高知西高校と同じ様な部活動があるのでしょうか。生徒数が少ないためチームの組めない部活だとどうなるのですか。練習は高校と一緒にできたりするのですか。

Ａ　中学校にどのような部活動を置くかは検討中です。決まり次第、お知らせします。ただし、中学校については、放課後の課外活動も充実し、探究的な学習を進めるうえでの調べ学習などの家庭学習の時間も確保する必要があります。また、生徒数も１学年 60 名（平成 33 年度からは 80 名）の予定であることを勘案しながら、どの部活動を置くかを、現在、検討中です。合同チームのことや、高校との合同練習のことなども含めて、決まり次第、ホームページ等でお知らせします。

なお、高校は、基本的に高知西高校と高知南高校の部活動を継承していく方針です。

Ｑ13　課外活動があり、レポート作成も多いと聞きましたが、部活動や趣味活動と両立できるのですか。

Ａ　国際バカロレア教育を進めるに当たっては、中学校の段階から、生徒が自分のやりたいこと、やらなければならないことを精査し、自らが時間管理できるように指導をしていきます。中学校は生徒数の関係で多くの部活動を置くことはできませんが、ＩＢコースを除けば、部活動と学習の両立は可能と考えています。

４　制服について

Ｑ14　制服はありますか。中、高ともに別の制服でしょうか。いくらぐらいしますか。

Ａ　制服については現在検討中です。どのような制服になるのか、費用はいくらなのかなど、決まり次第お知らせします。

５　教育内容について

Ｑ15　どのような意図で国際バカロレアを導入するのですか。外国人留学生を増やした方がグローバルになるのではないでしょうか。

Ａ　グローバル教育とは、多様な文化的・歴史的背景をもつ外国の人々と密接にコミュニケーションを図りながら、高い志を持って、主体的・協働的に課題解決を図るとともに、新しい価値を創造していく姿勢や能力もった人材、いわゆるグローバル人材として、将来活躍できる生徒を育成する教育です。この教育を実現するために国際バカロレアを導入することとしました。

　そのためには、外国人留学生と交流したり、海外留学するといったことにより、異文化に直接触れることも大切だと思いますが、同時に日本人としてのアイデンティティを育むことも大切なことであり、両方を育成していきたいと考えています。

（中学校やＭＹＰについて）

Ｑ16　家庭の協力とは、具体的にどの程度でしょうか。

Ａ　中学校で実施するＭＹＰでは、自学自習による家庭学習が大切となってきますので、その面でも心身ともに支え、見守っていただくなど、ご協力をいただくことが必要となってまいります。

　また、課外活動としての課題研究やボランティア活動では、生徒一人一人の興味や関心に基づいてテーマを設定しますので、調査したい場所やその活動の場所は生徒によって異なります。学校としても、できるだけ対応はしてまいりますが、生徒の希望する場所や夏休みなどの長期休業期間、休日などの時間に活動する場合などに付き添いなど、保護者の方にご協力をお願いすることになります。

Ｑ17　英語で授業を考えているようですが、英語が身に付かない生徒には、どのような対応をされるのでしょうか。

Ａ　個々の生徒の習熟度に応じて授業中や放課後に補講するなどのサポートを行います。その際には、外国人教員だけでなく、日本人の英語教員も対応してまいります。

Ｑ18　中学校、高校での補習はありますか。

Ａ　中学校段階では、課外活動もありますので、補習の時間を設定するのではなく、各生徒の習熟度に応じ、放課後を活用して、指導することになると考えています。また、高校の普通科では、現在、高知西高校でも行われている補習（土曜日の進学講座を含む）を継続して行う予定です。

Ｑ19　英語の少人数クラス制はわかりましたが他の科目のクラスはどうですか。

Ａ　基本的には 30 人学級ですので、学級ごとの学習になります。英語は 20 名ずつの少人数講座を実施します。
　また、高校では、教科・科目によって、習熟度別授業（国語、数学、英語）や、選択科目による授業（地理歴史・公民や理科）を少人数で行います。

Ｑ20　インターネットを使用し情報を集めレポートを作成する、事前学習のレポートとありましたが、パソコンを使用した発表などは考えられているのでしょうか。

Ａ　国際バカロレアの教育ではパソコンやインターネットを活用することは多くなります。学校には全館 Wi-Fi のもと、デスクトップ、タブレットを合わせて約 250 台のパソコンを備えていますので、これらを活用した授業を展開します。パソコン上で考えたものを、実際に表現するといった授業もありますし、生徒が自分でホワイトボードや模造紙に書き込んで発表することも考えています。

Ｑ21　高知国際中学校の生徒は、基本的にグローバル科に入学すると聞きましたが、高校進学時に普通科に変更する事はできますか。

Ａ　高知国際中学校から高知国際高校の普通科に進むことは可能です。ただし、原則はグローバル科に入学することとしていますので、生徒とその保護者が普通科への進学を希望し、校長が承認する場合に限ります。

（高校やＤＰについて）

Ｑ22　ＭＹＰは４年間で運用ということですが､高知国際高校の１年生はＭＹＰを学習するのでしょうか。

Ａ　ＭＹＰは３～４年間のプログラムで、学習内容は日本の学習指導要領に沿ったものです。ＤＰは２年間に定められたプログラムで国際バカロレア機構が示した学習内容を学習し、高校３年生の 11 月にＤＰ最終試験があります。グローバル科のＩＢコースについては、高校１年生の 10 月までは日本の学習指導要領に沿った教科をＭＹＰによって行い、11 月からＤＰを始め、最終試験のある高校 3 年生の 11 月までに学習を終えます。探究コースについては高校１年生までＭＹＰによる授業を実施する予定です。

Ｑ23　高知国際中学校からグローバル科のＩＢコースまたは探究コースのどちらに進学するかは、どのように決まるのでしょうか。

Ａ　ＤＰを選択するに当たっては、選択科目が大学進学に直結するため、十分な進路指導が必要となります。中学校の早い段階から担当教員が生徒や保護者との面談を重ね、中学３年生の段階で、生徒の適性や進路希望を勘案して、どちらのコースに進むかを決定します。

Ｑ24　ＤＰでの学習は、大変厳しいように思われますが、うちの子どもはＩＢコースで大丈夫ですか。

Ａ　Q23 で申しましたように、確かにＤＰでの学習はハードですが、各生徒が乗り越えられるよう、中学校段階からＭＹＰで学び、ＤＰの学びに少しずつステップアップしていきます。中高一貫の６年間で学ぶことにより、乗り越えることが可能なハードルであると思います。国際バカロレアは将来の目標が自ずと見つかる教育プログラムであり、学校がしっかりと支援してまいりますので、ぜひチャレンジしていただきたいと思います。

Ｑ25　ＤＰの選択科目は多いですが、すべて実行できるのでしょうか。また、理科・社会などで現在の主要教科以外を選択した場合、大学の一般入試で合格できる学力が付くのでしょうか。

Ａ　ＤＰを行うＩＢコースは一学年 20 名を想定しています。一つの教科の中で多くの選択科目を置くことは困難です。理系、文系の双方に対応したカリキュラムをお示ししますので、そのどちらかを選択していただくことになります。高知国際高校のＩＢコースの選択科目は下表のとおりで、生徒数から一定の制限があり、主要科目を選択することになるとお考えください。

なお、ＤＰの基本となる教科は、グループ１から６まであり、各グループについて１科目ずつ選択することが必要ですが、グループ６を選択せず、グループ１から５の中からもう１科目を選択することもできます。また、科目にはハイレベルと標準レベルがあり、３科目はハイレベルを選択しなければなりません。

高知国際高校　グローバル科　ＩＢコースのカリキュラム（案）

教科		科目	
		文系	理系
グループ１	国語	文学ＨＬ	文学ＳＬ
グループ２	外国語	英語ＨＬ	英語ＳＬ
グループ３	社会	歴史ＨＬ	歴史ＳＬ
グループ４	理科	化学ＳＬ	化学ＨＬ、物理ＨＬ
グループ５	数学	数学ＳＬ	数学ＨＬ
グループ６	芸術	音楽ＳＬ	

※　ＨＬはハイレベル、ＳＬは標準レベル。

Ｑ26　ＤＰ資格と日本の高校卒業資格の両方を得るために、生徒の負担が大きいのではないですか。また、ＤＰ資格に合格してなくても日本の高校卒業資格を得られますか。

Ａ　国際バカロレアのＤＰ科目を日本の学習指導要領による科目として単位認定することがきるように文部科学省より認められておりますので、普通科と同じ授業時間の中でＤＰを学習することができますので、生徒の負担は軽減されています。

　また、ＤＰ最終試験の結果とは別に日本の学習指導要領に基づいた単位認定を行いますので、ＤＰ資格に合格しなかったとしても、日本の高校卒業資格は得られます。

Ｑ27　ＤＰスコアの判定は現場に任されるのですか。それとも国際的な判断となるのですか。

Ａ　ＤＰスコアは外部評価として最終試験の結果、内部評価として口頭による試験やプレゼンテーションの評価がありますが、すべて、外部の試験官が厳格な採点基準に基づいて採点、評価し、ＤＰスコアが認定されます。

　学校においても、教員が評価して、予測スコアを出します。その予測スコアとＤＰスコアが合っているのかを、国際バカロレア機構により確認されますので、学校の評価の適切さが求められます。こうしたことから国際バカロレアを担当する教員のレベルも担保されます。こういったことにより国際バカロレアが長年にわたって国際的に評価されている基となっています。

Ｑ28　グローバル科の探究コースでは全員が海外短期留学やリサーチ活動をするのでしょうか。

Ａ　海外短期留学や海外リサーチは、渡航費用などの負担が必要となりますので、基本的に希望者を対象とします。

　なお、国の事業等も活用して、一定額の補助が得られるように努力してまいります。

Ｑ29　留学は必須ですか。どのようなものがありますか。

Ａ　１年間の長期留学については、現在の高知西高校の姉妹校（オーストラリア、タスマニアのフレンズ校）への交換留学の他に留学斡旋業者によるものがありますが、いずれも希望者対象となります。姉妹校への留学は、ボランティアのホームステイとなり、渡航費程度の負担となりますが、その他の場合は、渡航費の他、学費や食費等を含めて 100 万円から 200 万円程度の負担となります。

Ｑ30　姉妹校などからの留学生を受け入れるのですか。

Ａ　姉妹校とは交換留学を行いますので、留学生の受け入れもあります。統合する高知西高校と高知南高校では、国際教育推進協議会などの組織をつくり、留学生の受け入れを支援する体制を備えています。高知国際中学校・高校においても、こうした組織を引き継ぎ、留学生の受け入れ支援を行っていきたいと考えています。

６　学校生活について

Ｑ31　スクールバス等の導入の計画はありますか。

Ａ　現在のところ、スクールバスの計画はございません。

Ｑ32　公共交通であるバスの時間やルートを増やしていただけますか。

Ａ　生徒の通学手段の実態調査を行ったうえで、その状況により、バス会社に要望していきたいと考えております。

Ｑ33　下宿などの情報が欲しいです。

Ａ　入学前には、学校周辺の下宿情報はご提供できるように準備いたします。

７　大学進学について

Ｑ34　ＤＰスコアのみで大学入学できますか。

Ａ　大学によってＤＰスコアの取扱が異なります。海外の大学では、ＤＰスコアとインターネットのテレビ会議による面接で合格できる大学もありますし、試験を行ったうえで、ＤＰスコアを参考とする大学もあります。

　まずは、生徒が希望する国内外の大学のアドミッションポリシー（入試方針）の情報を得ることが重要となってきますので、中学校段階からしっかりと進路指導を行ってまいります。

Ｑ35　海外大学に進学した場合は、９月入学ですが、３月に卒業した後の６ヶ月はどうなりますか。

Ａ　大学入学に向けた準備をしていただくことになるかと思います。特にＤＰを学習した生徒は将来の目的をもって明確な進路を決定していることとなりますし、大学がゴールではありませんので、その先を見据えたボランティア活動などをしてくれるものと期待しています。また、学校でもサポートしてまいります。

Ｑ36　現在のところ、県内の大学ではＤＰスコアによる入試がないということでしたが、県内大学を希望するのであれば、探究コースに進むべきですか。

Ａ　県内大学には、文部科学省とともにＩＢ入試枠を設けていただけるよう要望しているところです。少なくとも平成30年度入学生が高校に入学するまでには、県内大学が国際バカロレア入試を設けるかどうかはお示ししたいと考えています。

Ｑ37　ＩＢコース生は国内大学の一般入試は受けられないのでしょうか。（学習指導要領に非準拠でしょうか。）また、ＤＰ試験に不合格となり、ＤＰ資格を取得できない場合はどうなりますか。

Ａ　ＩＢコースの生徒は、日本の高校卒業資格を合わせて得られますし、国内大学の一般入試も受験できます。高校３年生の秋にはＤＰの予測スコアが分かりますので、ＤＰスコアを大学入試に活用できるかは、その時点で判断できます。その場合、現在、国内の国際バカロレア認定校では、国際バカロレアを学んだ生徒にとって、それまでに培ったコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を生かして、推薦入試やＡＯ入試を活用して大学進学している生徒が多いと聞いておりますし、また、東京大学に一般入試で合格した国際バカロレア認定校の卒業生もいるなど、一般入試で合格される生徒もいると聞いております。

Ｑ38　難関大学進学の目標をもう少し明確にしてほしいです。

Ａ　目標とする難関大学としては、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学などのいわゆる旧帝大の国公立大学や、早稲田大学、慶應義塾大学などの私立大学、また、その他の大学も含めた医学部を想定しています。

８　高知国際中学校以外の中学校から高知国際高校への入学について

Ｑ39　公立中学校や高知南中学校から入学して高校からＩＢコースに入学は可能ですか。

Ａ　高知国際高校が開校する平成33年度入学者選抜では、公立中学校や高知南中学校の生徒を対象として、高知国際高校のグローバル科の募集人員20名を設けることを予定しています。その中からＩＢコースへ進むことも可能です。ＩＢコースでは、ＤＰを実施しますので、英語以外の教科を英語で学習したり、課題研究を行うなど、高いレベルの学習が求められます。こうした学習に対応できる学力があると認められる場合には、公立中学校や高知南中学校からの入学者もＩＢコースへの入学は可能です。合格が決定してから探究コースの選択も合わせて、入学までに学校からご相談させていただきます。

Ｑ40　公立中学校から高知国際高校に進学する場合の試験内容を教えて下さい。

Ａ　検査は他の県立高校と同じ検査を受けていただくことになります。Ａ日程（入学定員の100%）及びＢ日程（入学定員に満たない場合）国語、社会、数学、理科、英語の学力検査と面接が行われ、この他、志願理由書の提出を求めることも同様です。

　ただし、高知南中学校の平成30年度から32年度の入学生については、高知南中学校で実施する定期考査や実力テスト、各教科の評価により学力定着状況等を確認したうえで、基本的に高知国際高校の普通科へ入学できます。（学校パンフレット第２号２ページの下段参照）

Ｑ41　高知南中学校から高校入試なしに高知国際高校へ行けますか。

Ａ　平成30年度から32年度の高知南中学校の入学生までは、高知南中学校で実施する定期考査や実力テスト、各教科の評価により学力定着状況等を確認したうえで、基本的に高知国際高校の普通科へ入学できます。（学校パンフレット第２号２ページの下段参照）

Ｑ42　高知南中学校は高知国際中学校が開校した後も、平成33年度の入学者まで募集するのですか。

Ａ　高知南中学校は、平成30年度から32年度の入学生まで募集します。平成32年度の入学生が中学校を卒業する平成34年度末時点で、高知国際中学校との統合が完了します。（学校パンフレット第２号２ページ参照）

８　その他

Ｑ43　入学後、転校することになったときに、移転先の IB 校への入学を希望する場合もあると思います。その際、うまく転校できるような制度はないでしょうか。今後、検討する予定はありますか。

Ａ　転学の制度はありますが、公立中学校とは異なる制度です。公立中学校の場合は、移転先の市町村の教育委員会に申し出れば、試験などはなく転学できます。既存の国際バカロレア校へ転学する場合は、転学先は公立の中高一貫教育校や私立中学校であると考えられるので、基本的に学校間で照会して転学試験を行い、合格すれば転学できます。ただし、転学試験を実施するどうか、転学を許可するかどうかは、転学を希望する相手校側の判断になります。高校も県立中学校と同じ手続きになります。

Ｑ44　息子は化学物質過敏症です。改築、新築、万人にやさしい建材、床上にたまる VOC の排出換気扇設置をぜひ要望したいです。

Ａ　現時点では床面での換気設備の設置は考えておりませんが、建築基準法のシックハウスの規制に基づき 24 時間換気を整備し、建材は、ホルムアルデヒド放散等級の最上位規格、または、規制対象外のものを使用することとしています。また居室の内装工事完了後に VOC 測定し、安全であることを確認するなど、できる限り配慮してまいります。

Ｑ45　体験授業 2 度目の参加は構いませんか。保護者が全体を参観したいです。

Ａ　参加は可能です。今後も学校説明会や体験授業を計画しています。日程等が決まりましたら、高等学校課のホームページや高知国際中学校・高校のページ等でご案内いたしますので、ご確認ください。

Ｑ46　就学時援助のような制度は利用できるのでしょうか。

Ａ　各市町村において就学支援制度を設けております。また、県においては、高校での授業料に関する就学支援金制度や奨学金制度がございます。